

手近な機材で教材（番組）づくり ～編集編～

午前中に撮影をした映像を、午後編集します。編集の手順は、およそ次のようになります。

- ①ファイルの取り込み ②編集 ③書き出し

今回の研修では、ウィンドウズのパソコンに無料でインストールできる編集ソフト「ウィンドウズムービーメーカー」を使います。今回使用するものは、バージョン2.6ですが、バージョンは違ってても操作は大きく変わりませんからご安心ください。

ただし、デジカメの映像を扱うとき、気をつけなければならないことがあります。ウィンドウズムービーメーカーでは、今回のデジカメの映像をそのまま取り込むことができません。変換にはそれなりに時間がかかるので、昼食の前に変換ソフトを使って取り込める形式に変換をしておきます。

昼食の前の一手間 ファイル形式の変換

今回は、「4Free Video Converter」というフリーソフトを使います。変換しなくてよい（使わないファイル・NGのファイル）がある時は、メモしておくか、事前に削除しておいてください。

これから手順を説明します。

- ①デジカメをUSBケーブルで接続して、ファイルをパソコンに取り込む

USBケーブルでパソコンに接続し、リムーバブルディスクとして認識させます。

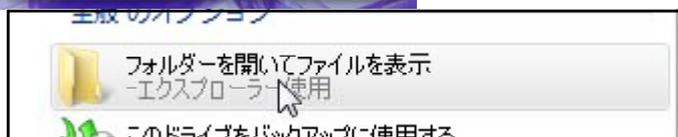


認識されると自動再生のウィンドウがポップアップします。

ル



スクロールバーをドラッグして「フォルダーを開いてファイルを表示」を選びフォルダの中に入ります。



さらにそのフォルダの中を順番に開き、画像ファイルが見える状態にします。



編集する画像ファイルだけを選択し、デスクトップに貼り付けておきます。

次に、「4Free Video Converter」



を起動します。



変換するファイルを選択し、上のエリアにドラッグします。



ドラッグされたファイルは、左のように表示されます。



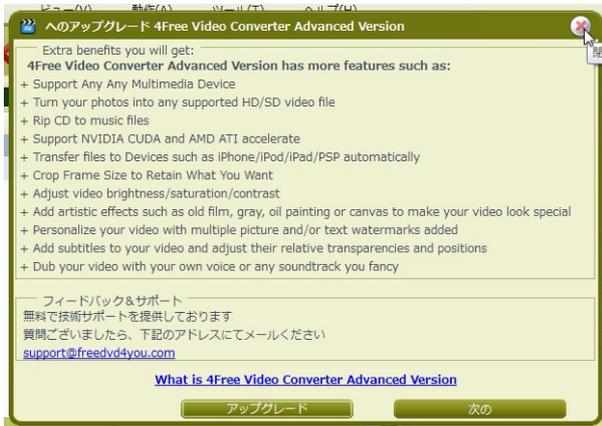
次に、プロフィールの中から、「一般的なビデオフォーマット」を選択し、右のウインドウのかなり下にある「WMV-Windows Media Video」を選択します。



次に、保存先をわかりやすくするため、デスクトップに変更します。



これで変換の準備完了、上のバーから変換をクリックします。



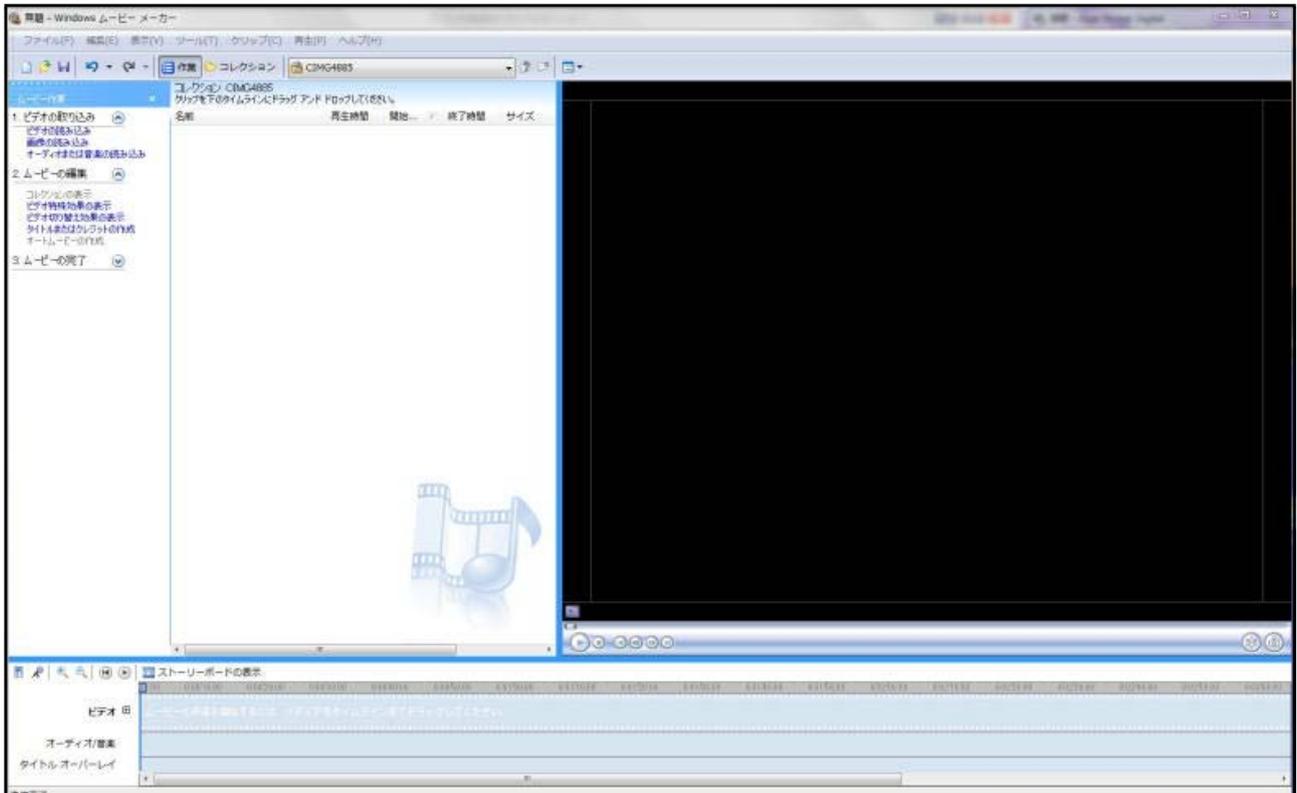
こんなウィンドウがポップアップしますが、×で消します。

これで変換の準備は完了、時間がかかるので昼食と休憩にしましょう。

いよいよ、手順①取り込み

編集作業の始めは、ファイルの取り込みです。もしウインドウズムービーメーカーが対応しているファイル形式なら、昼食前に行った変換の行程は不要になります。対応しているかどうかは、編集をする前に確かめておいてください。

ウインドウズムービーメーカーを起動します。起動すると、こんなウインドウになります。



左がメインのコマンドを選ぶエリア、真ん中が取り込んだファイル表示、右の黒い部分がプレビューウインドウです。ファイルとプレビューの大きさは、境目のブルーのラインをドラッグすると変更られますから、好みに応じて変更してください。



すると、ファイルのところには、複数取り込んだはずなのに、一つしか表示されていません。そこで、複数のファイルが表示されるように切り替えます。



上の「コレクション」を選択すると、すべてのファイルが表示されるようになります。

これで取り込みは終了です。

編集ソフトでは、デジカメで撮影した静止画像や、BGMやナレーションなどの音声ファイルも同様にして取り込むことができます。必要に応じて活用してください。

手順② 編集

いよいよ編集です。編集では、以下のことができます。

- ・不要部分のカット
- ・順序の入れ換え
- ・シーンチェンジのエフェクト
- ・タイトルやクレジットを入れる
- ・BGMやナレーションを入れる

今回の研修では時間の制約があるので、不要部分のカットと順序の入れ換えを中心に行います。その他のことは、時間にゆとりがありましたらチャレンジしてみてください。

ウインドウズムービーメーカーでは、2つの編集モードがあります。場面によって切り替えて使うとよいと思います。

ストーリーボード



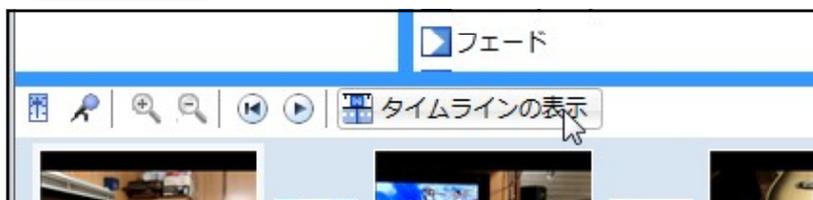
ファイルにカットする部分がない、シーンチェンジにエフェクトをかけたいなどの場合に向きます。



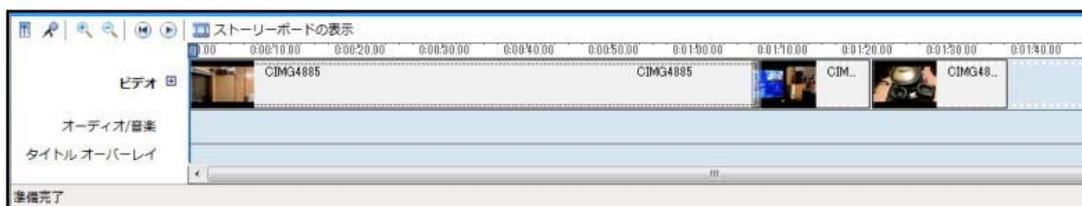
大きなますには、画像ファイルを置いていきます。間の小さなますにはビデオの切り替え効果を置くことができます。

編集のとき、ついついエフェクトを多用したくなりますが、あまり多用しない方が見やすくなります。大きなシーンチェンジ以外ではエフェクトを使わない方がよいでしょう。

タイムライン



ストーリーボードのすぐ上に、「タイムラインの表示」というアイコンがあります。ここをクリックすると、表示が切り替わります。

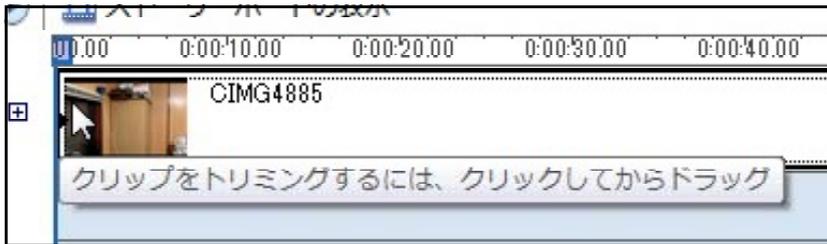


ストーリーボードとはちがいで、帯グラフのような表示

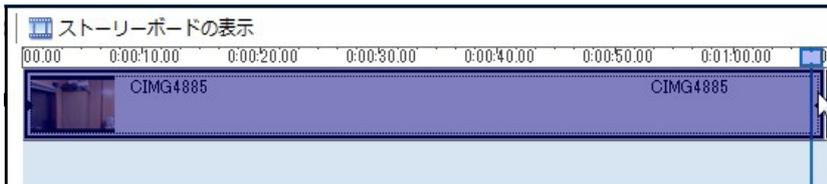
になりました。タイムラインでは、ファイルの中の不要部分のカットや音声ファイルの追加、タイトルを重ねるなどのことができます。

不要部分のカットの仕方は、2通りあります。

ファイルの前端または後端をカットする



ファイルのカットしたい前端または後端をクリックし、それからドラッグしながら不要部分をカットします。



操作されているファイルは、こんな色に変わって表示されます。

ファイルの途中をカットする



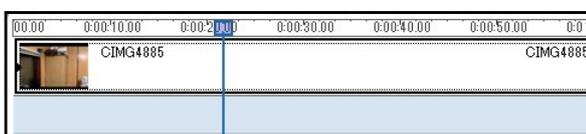
ファイルの途中をカットしたいときは、タイムライン上の青いバーをカットしたいスタート地点に移動します。時間の目盛りをクリックするか、ドラッグしながら移動させます。



モニター上のスライダーを操作すると、もっと細かく操作できます。また、モニターの下部の  ボタンでは、コマ送りで精密にコントロールすることができます。



次に、モニター右下の分割ボタンをクリックし、ファイルを分割します。



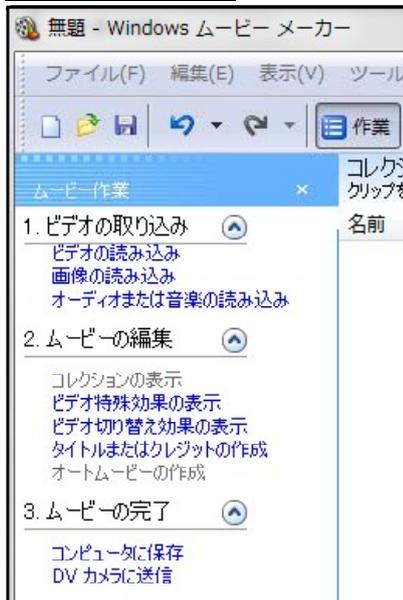
→



すると、指定されたポイントでファイルが2つに分割されます。

あとは、分割を繰り返して不要部分を切り取ってもいいですし、端をつまんでスライドさせてもいいです。これで不要部分がカットされました。

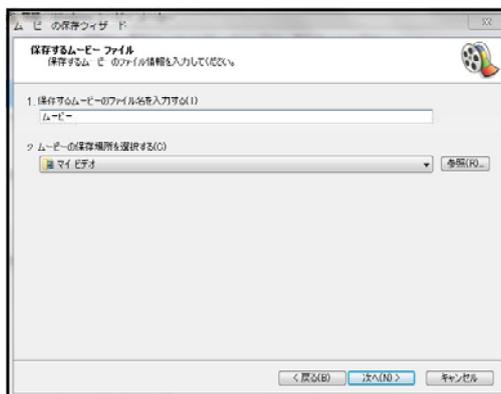
手順③ 書き出し



編集が終了したら、できあがったムービーを保存します。
ウインドウズムービーメーカーでは、選択肢が2つあります。

- コンピュータに保存（ムービーファイルにする）
- DVカメラに送信（DVテープに書き出す）

DVビデオカメラをお持ちで、IEEE1394ケーブルで接続していない場合は、下は選択できません。今回は「コンピュータに保存」を選びます。



ここで、ファイル名と保存場所を決めます。名前はそれぞれ任意でかまいません。保存場所はデスクトップを選択してください。

決まったら、「次へ」をクリックします。



次に、保存する品位を選びます。今回は「その他の設定」を選び、その中から「高画質ビデオ（大）」選んでください。ここは、必要によって品位を変えられますから、使用目的に合わせて選んでください。

書き出しが終わったら、編集は終了です。

編集が終わったら、ウインドウズムービーメーカーを終了します。この時、プロジェクトを保存しておくと、後でやり直しができます。

最後に

さて、ビデオ編集で大切なこと、注意点をまとめておきます。

① 編集しやすいように撮影しておく

意図をもって、つなぎやすい映像を撮影しておきましょう。

② ビデオ編集にはより高度なソフトとマシンパワーが必要

現在は、ハイビジョン画質がデジカメでも撮影できますし、数万円のビデオカメラでもとても高画質です。本格的にハイビジョン画像を編集するためには、ウインドウズムービーメーカーより高度な編集ソフトが必要です。また、パソコンもマシンパワーのあるものが必要になってきます。

③ 汎用性を高めるためにはDVD

高画質を極めるにはブルーレイディスクなのですが、汎用性を高めるためにはDVDにするのがよいと思います。DVDにするためには、ライティングソフトかライティング機能のある編集ソフトが必要になります。

ウインドウズムービーメーカーでも、今回触れなかったタイトルやオーディオトラックの編集を加えると、かなり高度なことができます。是非トライしてみてください。